ふくしま県人会だより

第　8　号
平成15年8月
福島県人会
北海道連合会

新会長のあいさつ

会長　長谷川　顕

「ふくしま県人会だより」第八号の発刊に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

本年五月二十四日佐藤栄佐久福島県知事ご夫妻のご臨席を頂き、弟子屈町川湯観光ホテルにて開催された連合会総会において、上田小八重前会長の後をうけ若輩者の私が会長職をお引き受けするに当たり、私の他にも多くの適任者がいらっしゃるにも関わらず指名を受け光栄の極みとあまりの重責に身の引き締まる思いと責任の重さに困惑しているところでございます。

いずれにしても、お引き受けしたからには全知全霊をかけて前進あるのみと覚悟を新たにしているところでございます。

今後連合会の運営には、各県人会会員の皆様のご支援ご指導を仰がなければなりません。何卒宜しくご鞭撻くださいますことを、お願い申し上げます。

幸い県北海道事務所「須永静夫」所長も新しく赴任され、心機一転今後二人三脚で連合会をもり立て、母県福島県と北海道の架け橋となり、隆盛を期していかなければならないと考えております。然し現在のような社会情勢下においては思うような発展も苦難の道とは思いますが、会員皆様の一層の奮起を期したいものです。

私ども県人会も寄る年波には勝てず、高齢化がすすみ各県人会も運営に支障を来してくるのではないかと危惧しているところでございます。

斯様なことを考えるとき、会員の増強に力を注ぎ、県人会発展のため努力をしなければならないと考えております。例えば会員自身の兄弟、子弟等、未だ未加入の県に縁とゆかりのある方に入会を勧めるとか、福島県出身者の情報をキャッチしやすいシステム作りも考えなければと思案するところです。いずれにせよ、末永き県人会発展のために会員一同英知と勇気を持って邁進して参りたいと考えております。

この様な考えのもと、これからは会員皆様方のお知恵を拝借し、運営をして参りたいと考えておりますので今後とも宜しくご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員皆様のご健勝と各県人会の益々の発展を祈念しご挨拶に代えさせて頂きます。

退任のあいさつ

前会長　上田　小八重

北海道には珍しい梅雨がつづいております。私こと連合会長として二期四年間、会員の皆さまにたいへんお世話になり、お力添えを頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

県人会連合会は、昭和四十八年函館総会において設立され、毎年の総会には必ず県知事がご出席くださる栄誉ある会で、歴代会長もまた素晴らしいお方ばかりでございました。初代は札幌市長歴任ののち衆議院議員となられた高田富与氏、第二代は元陸軍中将の渡辺祐之介氏、第三代札幌森口松太郎氏、第四代旭川梅津一四郎氏といずれも錚々たるお方ばかりでした。次期会長には、県人会活動に最もご熱心でおられた浜中の柳田三郎氏に内定しておりましたのに、総会直前に急病になられたため、急遽私が仰せつかった次第でございます。

その後は、相馬市全国豊かな海づくり大会、須賀川市うつくしま未来博、母県訪問、全国健康福祉祭ふくしま大会うつくしまねんりんピック２００２などに参加することができましたことは、私の終生忘れ得ぬ感激でございました。

毎年開催の連合会総会には、県知事ご夫妻をお迎えして会員の皆さまとの交流を深めることができましたのも、総会開催をお引き受けくださって並々ならぬご協力を下さいました各県人会のご努力の賜でございまして、厚く御礼申し上げるところでございます。

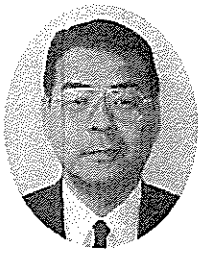
新会長には、実力派で県人会活動にご熱心な稚内長谷川顕氏が就任さ

れ、まことに力強い限りでございます。

力不足の四年間を支えて下さいました各県人会、県事務所の皆さまに心から感謝を申し上げ、福島県人会北海道連合会の一層のご発展をお祈り申し上げまして、退任のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

新任所長あいさつ

須永　静夫



河野前所長の後を受けてこの四月に着任しました。早いもので五か月が過ぎました。この間、連合会総会や各県人会の総会さらには、ももをはじめとする物産のPRなど大きな事業を行いながらあわただしく過ごしてまいりました。

特に、佐藤知事御夫妻をお迎えして弟子屈町川湯で開催した連合会総会につきましては、前回を上回る大勢の御参加により、おかげさまで盛大に開催することができました。知事御夫妻も大変お喜びになられておりました。事務局を担当していただきました別海町と浜中町の皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

自己紹介ですが、私は昭和二十六年六月に郡山市で生まれ、つい先日五十二歳になりました。三人の息子はそれぞれ静岡、横浜、茨城に住んでおり、スネと髪が心細くなるばかりです。郡山の実家に私の母と奥さんをおいて北海道にやってまいりました。真駒内の公舎で俗に言う「サッチョン」でありまして、北海道はビールがうまい、ジャガイモがうまい、と札幌の暮らしを満喫しております。

昭和五十四年に県に採用されまして現在二十五年目になります。前任地は二本松市の安達農業普及所ですが、農業技術者として主に中通りと会津地方で勤務しました。

このたび、北海道にまいりまして県人会の皆さまとお話をする機会が多く、皆様とお話しているなかで、故郷福島と北海道の歴史についてあまりに無知であったことを深く反省しまして、「戊辰落日」や「最後の将軍」等を読み直し、あらためて勉強しているところですので、皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

さて、来年には福島が生んだ世界的な医学者野口英世博士が新千円札に登場するなど、福島県が大きな話題になることと思われます。

また、私ども北海道事務所は昨年開所五十周年を迎え、皆様のお力添えによりまして半世紀の歴史を積み上げてまいりました。本年はまた新たな気持ちで飛躍の年になるよう、職員一同業務にあたってまいる所存であります。

終わりに、県人会の皆様のふるさと福島を思う熱い心に応え、本県県勢の発展と伝統ある福島県人会の発展を目指して、皆様の変わらぬ御支援と御協力をお願い申し上げ、新任のごあいさつといたします。

会員通信

第三十一回連合会総会担当県人会よりお礼の言葉

別海町福島県人会　菅野　達真

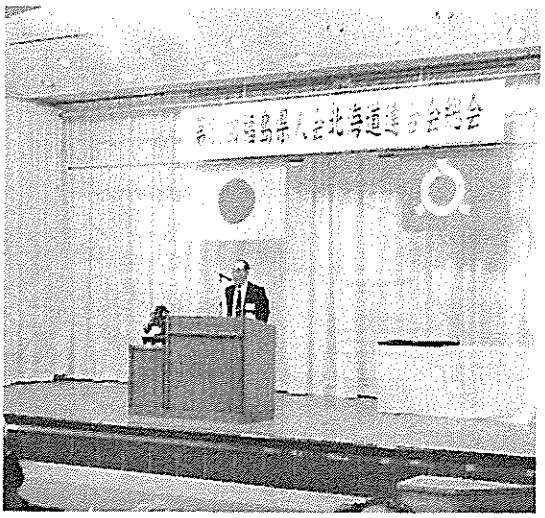
夏本番という今日今頃です。会員の皆様お変わりないでしょうか。

早速申し上げなければならない事ですが、本年度第三十一回福島県人会北海道連合会総会が道東別海町浜中町両福島県人会の合同にて当番をさせて頂きました。

何分不慣れな私達であり、また会場でありますが、別海町内には何軒かのホテルはありますが、大型ホテルはなく、遠く離れた観光地弟子屈町川湯温泉にて開催となったわけです。別海町からも八十ｋｍ強あります。何かと打合せ等につきましても、ままならぬことが多く、札幌事務所はじめ連合会会員の皆様にも大変ご迷惑をおかけいたしましたが、会員皆様のご理解とご協力を頂き、しかも大多数の皆様のご来席を頂き盛大に開催できましたことを感謝申し上げると共に心から感謝申し上げます。私達も各福島県人会の発展と福島県との交流に何かと努力しているもののなにしろ微力であり、今後とも会員各位のお力添えをお願い申し上げ、お礼に替えさせて頂きます。

この度福島県北海道事務所より県人会員からのお便り募集がありまして この機にお礼申し上げます。　別海町福島県人会の年中行事を申し上げますと、毎月のように行事があります。六・七・九月はパークゴルフ等、八月はふる里まつりまたは隣接県人会との交流会もあります。

別海町は農村地帯でもあり、昭和四年前後福島県庁の宣伝もあり、また募集により北海道に新天地を求めて大原始林に入植、不毛の地と言われた地で苦難を乗り越え、昭和十年頃より酪農に切り替え、一頭の乳牛



よりのスタートでありました。戦後酪農の大型化を目指し、ヨーロッパに追い付き追い越せを合言葉にがんばって参り、今では追い越したとも言われております。変わり行く酪農郷である別海町に是非お出でください。町の一端を申し上げ略儀ながらお礼とさせて頂きます。本当に有難うございました。

思い出断片“私の奥州二本松”

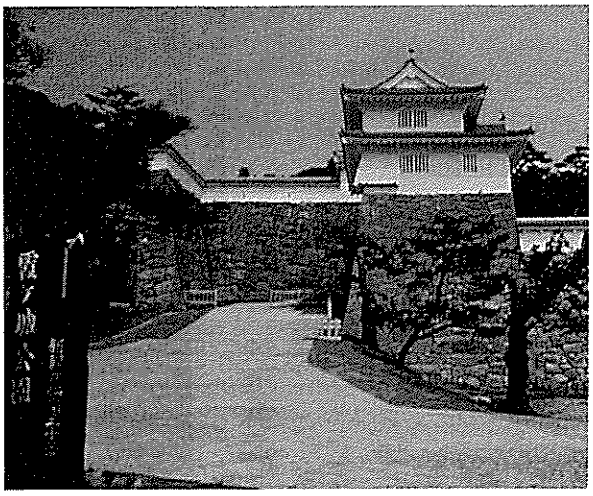
帯広県人会　新田　正雄

おぼろげな記憶が多い中で、どうしてなのか、あの和尚の独特な声音が蘇ってくるのです。「ばぁさんがなっ！」。安達ケ原黒塚のお寺の住職は、行く度に同じ話の口調でお経のように寸分違わぬ口上をのべるのでした。

それは、小学四年生の夏から翌年春にかけて母の実家に預けられたときのことでした。実家は二本松市竹田町の奥州街道に面する店と縫製工場を営み、雨具などの防水布を加工して売る仕事は結構忙しいものでした。母屋からゆるい勾配の長い石畳を下駄を鳴らして走ると祖母に面倒みてもらった離れに着く。その先は小川の石垣の上にそそり建つ土蔵でした。水田が方々にあった昭和十五年当時の夏、蒸し暑さは応え、土蔵の二階で川音を聞きながら、川で冷やした西瓜を食べたり、昼寝をしたりで涼んだのです。

店の後継ぎのいとこが旧制中学五年を休学中で、樺太から連絡船と長距離急行を二回ずつ乗換え二日半かけてやってきた私を可愛がってくれて、方々に連れて行ってくれたのです。とりわけ、鬼婆が住んだ跡を守るというこの寺の和尚が好きで幾度も訪ねていって、私も和尚からもらう餅菓子が目当てでついていったのでした。いとこは、私が樺太に戻った後復学して大学生となり、学徒応召で帰らぬ人となりました。

忘れ得ぬいとこと思い出の寺・ほこら。数年前訪ねて見たら、観光団体で溢れる観光名所となっていました。



半年いた小学校は共学を許さぬ男子校で、白虎隊に比べ二本松少年隊が称えられないのはおかしいとして、「少年隊の唄」を教えられました。今でも口をつくのは、“♪奥州二本松十万石の　丹羽さま　つがえ棒の旗じるし　咲いて匂った　ヨイショ霞ケ城！”。今、霞ケ城公園は、日本一といわれる二本松菊祭の会場になっていますが、春は花見の名所ともなっていて、見事に咲き、はらはらと散る花の風情が少年隊の唄の文句を思い出させます。

OBからのお便り

第六代所長　佐藤　忠司

皆様には北国で元気に頑張っておられることと御推察申し上げております。

昨年、勤務中の想い出などをと依頼がありましたが、出さずにしまい大変失礼をいたしました。

依頼の手紙を見ながら、小生の想い出を皆様にお伝えしたいと考え筆をとりました。

小生は昭和五十四年四月から五十七年三月までの三年間お世話になりました。数多くの想い出のうち三つほど時々思い出して妻と語り合っています。

北大学生寮は、学生不在中に全焼してしまいましたが、札幌県人会が中心となって再建に力を貸してくださいました。道内の県人会員の暖かい寄付や県からの補助金等によって再建され、本県から北大に学ぶ若者の寮として新築されました。この学生寮の再建には、故星先生、そして現農学部太田原先生の並々ならぬご苦労があったことを忘れることはできません。

次には、福島空港開設に当っての促進と札幌路線開設の陳情です。当時の連合会長故渡辺様と連合会の陳情書を関係機関や当時の松平知事に直接お会いしてお願いしたことです。小生も遊びで利用したかったのですが、残念に思っています。

また、松平知事が会津藩ゆかりの

函館市の高龍寺ほかに記念植樹をされました。樹目は「ベニサラサドウダンツツジ」、花の季節には是非ご覧いただきたいと思っています。

小生ごとですが、平成四年に脳梗塞のために半身不随となってしまいました。妻の介護を受けての生活で旅行も出来ずに残念ですが、どうしてもこれだけは皆様にお話したくて乱筆ながらしたためました。一読いただければ幸いです。

遠いところご苦労様ですが、健康第一に頑張ってください。

（平成十五年三月六日付けで佐藤忠司元所長から、北海道事務所あてにお送りいただいた手紙を掲載させていただきました。）

伊藤　栄子　　会津若松市

連合会の活動

平成十四年度第二回役員会
平成十五年一月三十一日
札幌市「京王プラザホテル」

平成十五年度第一回役員会
平成十五年五月二十四日
弟子屈町「川湯観光ホテル」

平成十五年度連合会総会

第三十一回福島県人会北海道連合会総会は、五月二十四日に弟子屈町「川湯観光ホテル」を会場に、来賓として佐藤栄佐久知事御夫妻、佐野力三別海町長及び徳永哲雄弟子屈町長をお迎えし、会員百六十八名が参加して盛大に開催されました。

席上、知事感謝状が長谷川顕さん（稚内）に、連合会長感謝状が近内広美さん（別海町）に贈呈されました。

また、任期満了に伴う役員の改選が当日の役員会でなされた旨の報告がありました。なお、次期開催地である旭川県人会から歓迎のあいさつがありました。

【新役員（敬称略）】

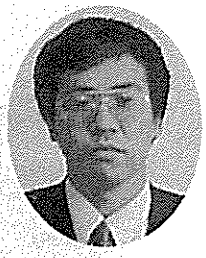
顧問　旭川　梅津　一四郎
会長　稚内　長谷川　顕
副会長　別海町　菅野　達真
副会長　美幌町　宍戸　政直
副会長　苫小牧　大内　清治
監事　帯広　新田　正雄
監事　恵庭市　富永　恭輔
理事　札幌　菅野　勉吉
理事　小樽
理事　釧路市　桑原　清
理事　函館　上田　小八重
理事　旭川　小野　一郎
理事　浜中町　伊藤　秀麻
理事　門別地区　原田　平
理事　千歳市　木内　將一

新会員紹介

別海町福島県人会
遠藤　ハル子　会津
石井　芳美　浪江町
谷川　裕子　相馬市

浜中町福島県人会
中井　大祐
松井　忠義

苫小牧福島県人会
遠藤　丑松　双葉町
長内　清路　相馬市



新任職員自己紹介

主査　大峯邦彦

この四月の異動により北海道事務所にまいりました。出身は「牡丹園」と「松明明かし」で有名な須賀川市です。

三月までは、生活環境部環境対策室というところで、産業廃棄物の不法投棄の規制に関する事務をしておりました。

四月に赴任してから数か月の間に、川湯温泉での連合会総会のほか、各地での県人会行事に出席させていただきました。初めての県人会行事への参加ということもあり、多少不安な点もありましたが、とても楽しい思い出の一つとなりました。

過去に北海道には数回観光に来ておりますが、久しぶりに北海道に来て新たな新鮮さを感じています。

今後も、この気持ちを大切にして、できるだけ皆様方の要望に応えられるようがんばりますので、今後ともよろしくお願いします。

編集後記

福島では低温による産業への影響が心配されています。

暑がりの人間にとっては、過ごしやすいのですが、夏は夏らしく暑いのが自然なのでは。

次回は来年一月発行です。原稿をお待ちしております。十一月末頃までよろしくお願いします。（酒井）